

1 体外式超音波検査を契機に発見された食  
2 道 GIST の 1 例

3  
4 ○高師紀子 関川由里子 角映里佳 木村豊 中村文隆  
5 (帝京大学ちば総合医療センター)

6  
7 【はじめに】超音波検査は空気に弱く、消化管疾患  
8 に対しては腸管ガスが存在し不向きとされてきたが、  
9 超音波診断装置の進歩とともに現在では積極的に臨  
10 床の場において応用されてきている。今回、超音波  
11 検査にて食道腫瘍が疑われ、病理組織学的に GIST  
12 であった症例を経験したので報告する。

13 【症例】54 歳女性。頸部皮下腫瘍を主訴に当院皮膚  
14 科を受診、精査目的で超音波検査を施行したところ、  
15 食道腫瘍が疑われ、内科精査入院となった。

16 【検査所見】  
17 超音波：腫瘍自覚部位にはリンパ節腫脹がみられた。  
18 甲状腺左葉背側に低エコー腫瘍が認められ、腫瘍は  
19 食道固有筋層に連続して気管側へ突出していた。  
20 内視鏡：門歯より 20cm に隆起性病変、粘膜面はほぼ  
21 正常で、SMT 様圧排像が認められた。  
22 超音波内視鏡：壁外にほぼ均一な低エコー腫瘍が認  
23 められ、エコーレベルは筋層と同等で、内腔への浸  
24 潤はみられなかった。

25 CT：頸部から胸部上部食道右側に辺縁平滑な充実性  
26 腫瘍が認められ、腫瘍により食道は弧状に圧排進展、  
27 甲状腺や気管にも接し、境界は不明瞭であった。

28 【経過】精査の結果、食道壁外性 GIST の疑いと診断。  
29 大きさより悪性病変の可能性もあるため、手術が施  
30 行された。病理組織学的には GIST で、悪性所見は認  
31 められなかった。

32 【まとめ】GIST は内視鏡ないし消化管造影検査で発  
33 見されることが多いが、今回の症例は腫瘍径が大き  
34 く、頸部食道に存在していたため、体外式超音波検  
35 査は有用であった。日常検査において消化管疾患に  
36 由来する訴えは多く、消化管超音波検査の需要が高  
37 くなってきている。消化管疾患の知識を深め、技術  
38 向上に努めていきたいと思う。